

# 全学教育科目の時間割に関する アンケートで寄せられた 代表的意見およびその回答

各ページについて、緑色で塗られた吹き出しが学生からの代表的な意見、白い吹き出しがそれに対する回答です。

学務審議会企画委員会  
学務審議会教務委員会



## はじめに

10月に実施したアンケートでは、前期に引き続き多くのご意見をお寄せいただきありがとうございました。

お寄せいただいたご意見については、全学教育科目の時間割やカリキュラムの改善のために活用させていただきます。

また、一部専門科目や履修要件に関するご意見もお寄せいただきましたが、それらは各学部で共有しています。

今後も履修上の不都合点や改善を希望する点が生じた場合には、教務課窓口までお寄せください。

(専門科目に関する点については、各学部教務係に直接お申し出ください。)

## (1) 学問論演習について

- ・木曜4講時に川内で授業があるが、木曜5講時の学問論演習が青葉山（または星陵、片平）で開講されており、移動が困難です。
- ・開講されるキャンパスを明示してほしいです。

木曜5講時で川内以外のキャンパスで実施される学問論演習については、移動を考慮して開始を遅らせる措置を各教員にお願いしておりました。  
次年度以降も同様に考えていますが、事前の学生および教員への周知が不十分なところもあったのは事実かと思っておりますので、改善してまいります。

配属されたクラスは集中講義で実施と事前に周知されていたが、実際には木曜5講時で開講されており、木曜5講時に履修するつもりだった授業を履修できませんでした。

今回、事務側の設定不備により一部クラスにおいて事前周知の情報と実際の開講日時が異なっているクラスが生じたことについては深くお詫び申し上げます。  
今回の例とは異なりますが、集中講義と記載がある場合でも、一部通常の間隔（月1・月2・木5）を使用することがあることについてはご承知おきいただければ幸いです。  
教員には、クラス決定後の開講時間帯の変更は行わないよう引き続き周知してまいります。

## (2) 曜日ごとの時間割配置について

- ・ある曜日には必修の科目が集中しているが、一方で別の曜日には履修できる授業がほとんどなく、バランスが悪いので改善いただきたいです。
- ・1コマ空きが生じる時間帯を解消してほしいです。

各科目とも、担当できる先生や講義室の数に限りがあるため、一部の学部・学科においては科目が集中していたり、逆に空き時間が多く発生したりすることはどうしても避けられません。

空き時間が発生した場合には、各科目の課題など授業時間外学修の時間としてご活用願います。1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容で構成されることとなっており、例として**2単位の講義科目の場合は、15回の授業受講に加え、授業1回あたり4時間の予習・復習を必要**とします。この考え方を念頭に、**選択科目を詰め込みすぎない時間割にするよう工夫**してください。

### (3) 人文科学群の履修について

- ・同じ時間帯に科目が集中しすぎているため、開講時間帯を分散させてほしいです。
- ・当該時間帯に専門科目や他の全学科目が設定されていないにもかかわらず、学部によって履修できる学部とそうでない学部があるため、すべての学部が履修できるようにしてほしいです。

学生が1 Semester 当たりで授業科目を履修しすぎないようにすること（時間割配置に関する回答も参照）と、開講授業数の肥大化を防ぐために新カリキュラムでは開講時間帯を限定しています。学部によって受講できる時間帯が異なるのは、すべての学部を対象としてしまうと、受講生がその時間帯に集中しすぎて、抽選科目が現状以上に多くなることや、講義室が不足してしまう事態を避けるためです。

2年生での他科目との重複を心配されている方も多いかもしれませんが、**令和5年度以降は2年生でも前期・後期とも1年生と同じ時間帯で人文・社会・学際各科目を受講できます。**

具体的には、3セメの火2は全学部で、木2は理系学部で、それぞれ受講可能となります。

**2年生までの間に履修し終える設計**になっているため、希望の科目が履修できない場合には、その時間は別の科目を受講し、希望の科目を次Semester以降で履修するなど、工夫してください。

今年度は一部の時間帯で開講される科目が少ない状況にありましたが、上述のように開講される時間帯を共通化することで、より多様な科目を1・2年生が同時に履修できるようになる見込みです。

開講時間枠の拡充については、安易に導入すると各学生の履修科目数が増えてしまうため、各科目の履修者数も勘案して慎重に検討します。

## (4) 社会科学群の履修について

・今学期に開講されている科目が日本国憲法しかなく、3セメの時間割の見通しが立たないことから、受講生が殺到しているため、改善してほしいです。

今年度については新カリの科目数で旧カリにも科目を配置する必要があったため、結果として開講数が少なくなったことについてはお詫びしたいと思います。

ただ、3セメ以降での履修も前提としていたため、2セメが一時的に開講科目数が少なくなっても特に問題ないと考えていました。

次年度の人文・社会・学際の開講時間帯は前期アンケートの結果としてお知らせしていましたが、今年度後期履修登録時までには次年度の詳細な時間割を発表するのはスケジュール上不可能でした。

**3セメでは2つの時間帯（火2および木2）に少なくとも5科目を配置します。**そのうち2科目については、2年生以上のみを履修対象とする科目となっています。

いずれも、各学部で履修できる形となりますのでご安心ください。

なお、次年度は2セメで日本国憲法以外に3科目程度の社会科学科目を配置する予定です。

## (5) 学際科目群の履修について

- ・卒業要件が4単位選択必修なのに、1年次では2単位分しか履修できません。
- ・自然と環境について、自学部向けの講義がありませんでした。

社会科学群同様に、**2年次まででの履修を想定しています**（特に理系学部）。  
**1・2年次を通じて、すべての科目が履修できる**という設計になっているため、ある程度バランスを考慮した科目配置としてはいますが、科目によっては1年次で履修できない学部が生じる可能性があることとはご理解いただければ幸いです。

なお、次年度からは新たに「東北アジア地域研究入門」が後期水曜5講時に開講予定です。

(参考)人文・社会・学際の各科目群開講時間帯・対象学部一覧 ※前期に公開していたものと同様

<前期火曜2講時>

・1セメ:文・教育・理の各学部、工学部6～14組      3セメ:全学部

<前期木曜2講時>

・1セメ:法・経済・薬・農の各学部、医学部医学科、工学部1～5,15,16組      3セメ:理系学部

<後期火曜2講時>

・2セメ:文系学部、工・農の各学部      4セメ:工・農の各学部、理学部地球科学系

<後期水曜1講時>

・2セメ:文・教育・医・歯・農の各学部、工学部1～5,13～16組      4セメ:医・歯・薬の各学部

<後期金曜1講時>

・2セメ:法・経済・理・歯・薬の各学部、医学部保健学科、工学部6～12組

緑色で示した学部・学科は、当該時間帯は人文・社会のみ履修可能です(学際は履修不可)。  
上記の時間帯には、他の必修科目や専門科目が入らないよう調整しています。  
万一専門科目が重複した場合の対応については、各学部教務係にご確認ください。



## (6) 初修語について

5講時に開講されている朝鮮語について、同じ講時に開講されている先進科目が履修できないほか、自学部向けに開講されている他の初修語の時間帯でほかに履修する授業がなく空きコマになることから、他の初修語と同じ時間帯で開講してほしいです。

ロシア語および朝鮮語については、受講者数規模と担当教員確保の都合で全学部共通の時間設定にせざるを得ず、その関係で5講時以外の設定が不可能な状況にあることをご理解いただければ幸いです。

繰り返しの回答となりますが、**授業の入らない時間帯は授業時間外学修の時間として活用願います。**

## (7) 抽選について

- ・ 抽選に外れ、履修したい授業に参加できませんでした。
- ・ 履修希望者に対して受講可能人数が少ないため、受講者数の拡充をお願いします。
- ・ 抽選の実施見込み、方法が事前に周知されておらず、また抽選結果の発表も遅いため、外れた場合に他の科目を履修するのが困難でした。

人文・社会・学際的各科目群については、次年度以降に向けてはなるべく100名未満の人数制限を行わないように各教員に依頼しており、引き続き声掛けを行ってまいります。

国際教育科目については、留学生との共修という形をとる授業が多い都合、少人数のゼミ形式での実施となり少なめの人数制限をかける科目が生じてしまうことはどうしても避けられません。

周知については、担当教員に対しシラバスや授業実施方法一覧にておおよその定員を明記したうえで、すみやかに結果を知らせるよう依頼してまいります。

## (8) 授業実施形態について

オンデマンド授業を拡充してほしいです。（定員の廃止、時間割設定の柔軟さなどの理由）

大学設置基準により、通学制の大学におけるメディア授業科目（総授業時間数のうち半分以上がメディアを活用して行われる授業科目）の履修は、卒業要件単位を124単位とした場合**60単位まで**と定められています（感染対策の特例としてオンライン授業を実施している科目を除く）。

この60単位の中には専門科目の単位数も含まれるため、**全学教育科目として無尽蔵にオンライン授業を設定できるわけではない**ことをまずご理解ください。

低学年次学生の履修が主となる全学教育科目においては、特に対面での学修効果を重視しています。そのうえで、各授業科目で学修する内容や特性に合わせて、キャンパスで行う対面授業とオンライン授業を効果的に併用した授業実施としています。

## (9) 履修登録について

履修登録期間をもう少し長くしてほしいです。（期間の前倒しも含む）

履修登録期間を長くして講義の途中回からの参加を認めると、全15回中講義に出席しない回数が増えるとともに、登録の反映が遅くなれば学務情報システムのスケジュールへの反映も遅くなり、休講情報などの連絡も登録のない期間は入ってこないこととなります。授業担当教員にとっても後になってからの人数の変動が多く生じ、また受講学生ごとの出席回数がばらつくことで評価の平等性が崩れるなど、成績を管理するにあたって負担となると思われます。

また、特に後期の登録期間に関してですが、10月入学者は10月1日以降でなければ履修登録が行えないのに対し、在學生について9月中の履修登録を認めてしまうと、履修登録期間の不公平が生じてしまうこととなります。学務情報システム上での学期の切り替え作業スケジュールも考慮すると、**履修登録期間の前倒しは難しい**ことをご理解いただければ幸いです。

## (10) キャンパス間移動について(学問論演習を除く、主に2年生以上)

- ・ 専門科目と重複したため、全学教育の取りたい科目が履修できませんでした。
- ・ 10分の業間で川内北と青葉山（または川内南）の移動があり、履修が困難です。

先進科目については2年次以上でも履修できるよう多くの授業が5講時に設定されていますが、各学部での専門科目との重複、およびキャンパスが異なる場合に移動が生じてしまうのはどうしても避けられないことです。

教職科目については、10分間での移動に困難が生じる場合は、なるべく集中講義を履修してください。なお、令和6年度以降は3年次以上向けにオンラインを活用した授業が複数開講される予定です。

また、文系の川内南キャンパスとの移動については、旧来より10分間での移動は許容されており、これが認められないと多くの科目の開講に支障が生じます。**終了時間を超過しがちの教員がいる場合には、全学・専門を問わず授業担当教員にご相談ください。**

## (11) その他(学部専門科目に関する意見)～法学部～

金曜1講時に専門科目「日本近代法史」が入っており、全学教育の人文・社会・学際各科目が履修できなくなっている一方、水曜1講時は専門科目が入っていないにもかかわらず、法学部の学生が履修できない形となっているため、改善してほしいです。

法学部をはじめ、すべての学部には昨年8月末の時点で令和4年度全学教育科目が学部ごとにどの時間帯で開講されるかという点についてお知らせしていますが、教員の都合等により専門科目を同一の時間帯に設定したようです。

原則として**全学教育の科目が開講される時間帯には専門科目を入れないよう各学部にはお伝えしています**が、法学部の見解としては「全学、専門のいずれも卒業までのどこかのセメスターで履修すればよいので、全学または専門のいずれかを選択して履修してほしい」というもののようでした。

改めて、意見があったことを法学部に伝えます。

## (12) その他(学部専門科目に関する意見)～工学部～

- ・工学部の専門科目である「創造工学研修」の開講時間が他の科目と重複しています。
- ・学問論演習の希望調査の段階で創造工学研修の各クラス開講日時が発表されていなかったため、学問論演習の履修をあきらめざるを得ませんでした。

創造工学研修については、教員と受講学生で開講時間を柔軟に変更することがあるようです。

次年度入学者への連絡内容となってしまいますが、まずは重複を気にせずに履修希望を出していただき、困難があった場合は創造工学研修の担当教員にご相談ください。

なお、ご意見については工学部にもお伝えします。